ZAIDAN NEWS LETTER
OCT/2012
VOL.16

HITACHI
Inspire the Next

◆公益財団法人 小平記念日立教育振興財団
◆公益財団法人 日立環境財団
◆公益財団法人 倉田記念日立科学技術財団
◆公益財団法人 日立国際奨学財団
◆公益財団法人 日立みらい財団
◆日立ファウンデーション（米国）

公益財団法人 日立環境財団　創立40周年

ごあいさつ

理事長　庄山　悦彦

「環境」が広く日本人一般の関心事となったのは、1960年代の激甚な大気汚染等の公害問題でした。1971年には環境庁が設立されましたが、その翌年には、公害問題が地域社会に及ぼす影響や公害防止技術の調査、研究ならびにそれらの成果の普及啓発活動を目的として当財団の前身である「公害調査センター」が発足しました。

それから40年を経た現在、私たちを取り巻くさまざまな地球規模の環境問題があります。

過去1万年、大きな変化がなかった大気中CO_2濃度は産業革命以降の200年で増加が見られます。過去100年で世界の平均気温が0.7℃上昇し、世界平均で海面水位は17cm上がり、雪の面積は減っているというデータがあります。IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の第4次報告書（2007年）では、「20世紀半ば以降に観測された世界平均気温の上昇は、人為起源の温室効果ガスの増加による可能性が非常に高い」と書かれています。

世界の人口は、50年前に30億人だったものが、現在は70億人に増加し、さらに2045年には90億人を突破するといわれています。3倍に増加する人々が生きていくために必要な水、エネルギー、生物資源、鉱物資源、食料などは限りある資源であり、今後不足することは明らかな状況の中で、廃棄物処理や資源循環を進めることで資源を有効に活用していく取組みが必要です。さらに、熱帯雨林の減少や砂漠化、生態系の破壊とそれに伴う生物多様性の問題もあります。

こうした課題を解決するため各国政府は取組みを模索しています。政府だけでなく、企業は新技術の開発により環境保全に取組み、市民の活動であるNPO/NGOも政策提言、日常の実践活動などさまざまな形で環境問題の解決に貢献しています。

40周年を迎えた当財団は、今後も「季刊　環境研究」の発行「環境賞表彰」「環境NPO助成」などの事業を通じて、環境問題の状況と、さまざまな取組みを知っていただくとともに、「環境サイエンスカフェ」などの環境教育も行ってまいります。

これらの活動を通じて、微力ながら環境問題への正しい認識と理解を深め、循環型社会、持続可能な社会の実現に貢献するための活動を推進してまいります。

第39回環境賞表彰（2012年6月）

環境大臣賞・優秀賞

「革新的添加剤製造法の開発による低燃費タイヤの普及」
東京工業大学　高田 十志和／ダイソー株式会社　山田 聿男

優秀賞

「多機能シートによる緑化技術」　多機能フィルター株式会社

優良賞

「人工腐植土と製鋼スラグによる森林再生の取り組み」
住友金属工業株式会社　和歌山製鉄所／国土防災技術株式会社

「東アジア地域の大気汚染物質の航空機観測」
東京農工大学　畠山 史郎／法政大学　村野 健太郎
大阪府立大学　坂東 博／国立環境研究所　高見 昭憲
中国環境科学研究院（故）Wang Wei

※環境賞　環境保全に関する調査、研究、開発、実践活動などに対する表彰事業

季刊　環境研究

1972年創刊
環境問題の最新動向を紹介しています。
官公庁、地方自治体、全国の大学・図書館などに寄贈しています。

最近の特集

158号　世界に伝える日本の自然共生（2010.8）
159号　第37回環境賞／日本の経済成長戦略と「水」（2010.10）
160号　気候変動と途上国支援（2011.2）
161号　政策大競争時代の環境経済研究（2011.5）
162号　資源制約下での資源循環の高度利用（2011.7）
163号　総合的視点から見た「持続可能な開発のための教育」（2011.9）
164号　第38回環境賞/地球環境研究（2011.11）
165号　環境庁設立40周年（2012.2）
166号　リオ+20（2012.5）
167号　第39回環境賞/環境ICT（2012.9）

日立環境財団

●環境NPO助成　受領団体レポート

平成21年度と24年度の受領団体であるソーラーカーチームプロミネンスが、World Green Challenge（ソーラー&FCカー・ラリー）に出場するということで、秋田県大潟村の大潟ソーラースポーツラインを訪ねました。

このレースはソーラーカーや燃料電池車などの新エネルギーをつかった自動車のレースで、今年で20回記念という伝統あるレースです。専用道路としては世界最長の一周25kmコースを、8時間/1日×3日間走行し、距離を競います。

プロミネンスは、「個人がいつでも自由に、もっとも効率的に移動するための次世代型モビリティ」をめざし、平成21年度の助成金でバッテリー駆動の一人乗り超小型モビリティ「P.C.D.（Prominence Commuting Device）」を試作しました。今回のレースには、定置型太陽光システムで充電した電池で参戦し、総合4位、クラス優勝という成績を収めました。

560Wの太陽電池からの充電のみで、24時間の走行距離は875km、最高速度は80km/h、平均速度は55km/h とのこと。素晴らしい結果でした。

▼詳しくはチームプロミネンス（P.C.D.）ホームページへ▼
https://sites.google.com/site/prominencepcd/release/aug2012 をご覧ください。

●環境サイエンスカフェ　開催報告

第9回「地球温暖化は怖いか?」
～温暖化リスクの全体像を探る～

講　師：江守　正多さん（国立環境研究所 地球環境研究センター 気候変動リスク評価研究室長）
日　時：2012年6月27日（水）18:30～
場　所：サロン･ド･冨山房　Folio（千代田区神保町）
参加者：38名

第10回「7万本の縞模様と70万粒の花粉」
～水月湖の土が語る気候変動7万年の歴史～

講　師：中川　毅さん（英国ニューカッスル大学 教授）
日　時：2012年8月29日（水）18:30～
場　所：サロン･ド･冨山房　Folio（千代田区神保町）
参加者：45名

第9回環境サイエンスカフェ･江守　正多さん

第10回環境サイエンスカフェ･中川　毅さん

当日の講演内容、今後の開催スケジュールは財団ホームページをご覧ください。
講演録は、現在第9回開催分まで公開しています。

日立環境財団のfacebookページが出来ました。 日立環境財団 Facebook

倉田記念日立科学技術財団

倉田奨励金（研究助成金）受領者の研究成果を纏めた「倉田奨励金研究報告　第42集」を10月下旬に発行します。ご希望の方は財団事務局までお問い合わせください。

日立ファウンデーション

●日立コミュニティ･アクション･パートナーシップ（HCAP）25周年

HCAPは、北米の日立グループ各社に設置されている従業員ボランティアによる地域活動委員会（CAC：Community Action Committee）が企画する地域貢献活動に対し、会社と日立ファウンデーションがそれぞれ同額の活動資金を拠出するマッチングファンドプログラムです。

1987年に日立アメリカ社（ニューヨーク州タリータウン）に最初のCACが組織されて以来、年々規模を拡大し、現在は、米国とカナダにおいて合計38のCACが活動しています。プログラム開始時より一貫して、企業も一般市民と同じように、地域社会に積極的に参加すべきであるとの考えに基づき、活動を続けてきました。

HCAP25周年の節目に、Points of Light Corporate Institute（企業のボランティア活性化を推進する非営利組織）により、卓越した従業員ボランティア活動を推進する13の企業のひとつとして、北米日立グループと日立ファウンデーションがノミネートされるという嬉しい知らせがありました。HCAP独自の自己評価･改善ツールを活用することで、全てのCACが同じ指標に基づき、常に活動の質の向上を意識して推進している点などが、評価されています。

北米各地のCACによる、さまざまな活動

詳しくは日立ファウンデーションHP ▶▶ http://www.hitachifoundation.org/our-work-ja/hitachi-community-action-partnership-ja をご覧ください。

日立国際奨学財団

●平成24年度日立スカラーシップ奨学生夏季研修旅行

財団では国内の大学院で学ぶ日立スカラーシップ奨学生を対象に毎年、国内各地を巡る夏季研修旅行を実施しています。今年は16名の奨学生全員が参加して東北4県（青森、秋田、岩手、宮城）を8月29日～9月1日にかけて3泊4日で周りました。

例年にない猛暑の中、各地の名所旧跡（康楽館･中尊寺･毛越寺･松島･瑞巌寺）を訪問しその歴史と景観の一端に触れたり、郷土芸能や民芸品製作（津軽藩ねぶた村）を体験する機会に恵まれました。また、世界自然遺産“白神山地”では八千年の昔から繰り返される自然の営みを散策を通じて直接感じることもできました。

近年、国内の近代化産業遺産を訪れる人々が増えていますが、財団も今回は秋田県の小坂鉱山を訪問しました。財団では奨学生に対して来日後のオリエンテーション時に日立の事業活動紹介や、小平記念館をはじめとした事業所訪問を行い理解を深めてもらっています。

その一環として見学した小坂鉱山は、日立創業者である小平さんの原点ともいえる場所です。解説員の話を熱心に聞き入る奨学生は、明治初期わが国の近代化に取り組んだ日本人の姿に感動し、また日立ファミリーの一員であることを再認識していました。

ねぶた太鼓演奏体験（青森）

小坂鉱山事務所（秋田）

松島湾口（宮城）

小坂鉱山の説明を聞く奨学生

毛越寺（岩手）

白神山地（青森）

小平記念日立教育振興財団

●日立家庭教育センター　親子教室講演会

茨城県日立市 日立家庭教育センターでは、2歳から3歳の子と親が一緒に通える幼児教室と親教室を1年間のプログラムで週1回開催しています。親教室では講師の先生による講演会を年に数回開催しており、7月23日(月)は筑波大学大学院　長崎教授による「社会性を育む～人といることが楽しく思える子に～」のテーマで講演会を行いました。長崎教授は、コミュニケーション研究分野の第一人者で、言葉の世界に赤ちゃんはどのように入っていくのか最新の研究成果や映像も交えながらお話しいただきました。

乳幼児のコミュニケーションには、言葉で伝達できない赤ちゃんが、お母さんを目的達成の手段として利用する「要求伝達」と、気持ちや情報を他者と共有する「相互伝達」があり、コミュニケーション能力を育てるには「相互伝達」が重要な役割を占めるといいます。赤ちゃんがお人形を指さし「アアア」と興味を示した時は、お母さんがやさしく「そのお人形かわいいね。」と赤ちゃんの目を見て伝えることで、赤ちゃんは気持ちを受け止めてもらい自分は大切な存在だと実感するそうです。それにより社会性の基礎が身につき、赤ちゃんの自尊心を高める効果があるというお話でした。その他にも乳幼児を子育て中のお母さん方に興味深い内容の講演会でした。

会場の様子

会場の様子

講演後子どもたちと遊ぶ長崎教授

外で遊ぶ講演中の子どもたち

長崎　勤　氏
筑波大学大学院 人間総合科学研究科教授
公益財団法人 小平記念日立教育振興財団 家庭教育研究委員会委員

●平成24年度 第40回小平記念教育資金贈呈式

7月4日茨城県庁において、第40回小平記念教育資金の贈呈式を行いました。

小平記念教育資金は、茨城県内の780校の小中学校を対象に、創造性豊かな児童を育て、基礎教育振興の一助とすることを目的に昭和48年から教育資金を贈呈しています。各部門別に著しい成果を上げている優秀校に、30万円相当の日立製品などを贈呈しました。

小平記念教育資金受賞校

部門	学校名
学力向上の推進	高萩市立　東小学校
科学技術教育の推進	水戸市立　石川中学校
環境教育の推進	常総市立　絹西小学校
国際理解教育の推進	鹿嶋市立　鹿野中学校
心の教育の推進	稲敷市立　阿波小学校

日立みらい財団

こども・みらい・サポート事業開催

日本BBS連盟と共催で、子どもの健全育成とBBS会員のスキルアップを目的とした、第12回こども・みらい・サポートin滋賀「Together Lake 冒険しよう！みんなのびわこ」が8月25日から1泊2日の日程で開催されました。この事業は日頃地域を中心に活動を展開しているBBS会が、年に一度より大きな地域ブロックで連携してプログラムを実施することで、横の連携を強化することを目的として行われています。今年は約100名のBBS会員と56名の小学4年生から6年生が参加して行われました。

日本BBS連盟　馬場義宣会長のご挨拶の後、琵琶湖湖畔でインストラクターの指導のもと10人乗りのいかだを4チームに分かれ作りました。ロープだけで組み立てる作業に子どもたちは戸惑っていましたが友達と連携し手際よく進めていました。完成後は各チーム対抗レースが行われ、初めて出会った子どもたちも一致団結してゴールをめざしました。夕食では宿泊するキャンプ場で懐中電灯を照らしながらカレーを食べ、笑い声でいっぱいのにぎやかな交流の場となりました。最終日は、よし笛作り、広場でのリクリエーション、クイズ大会、次回開催地である青森につなぐ「絆」の旗作りを行ない充実した2日間が終了しました。2日間を通じて、BBS会員が子どもたちと真剣に向き合い、実り多い夏休みのイベントになるよう細部まで気を遣う真摯な眼ざしに感動させられました。

*BBSとはBig Brothers & Sistersの略。兄や姉のような身近な存在として少年たちが健やかに成長するお手伝いをする青年ボランティアです。

第35回竹内亀次郎記念杯日立市少年少女スポーツ育成大会

茨城県日立市の小学生が所属するスポーツ団体を対象とした「竹内亀次郎記念杯日立市少年少女スポーツ育成大会」を日立市体育協会と日立市スポーツ少年団本部の共催で8月18～19日に開催しました。本大会はスポーツを通じて少年少女の健全な心身の育成と友情や連帯感を育てることを目的としており、野球・バレーボール・ミニバスケットボール・サッカー・バドミントンの5種目の試合が各会場で行われました。

サッカー会場でお会いした（株）日立製作所 日立事業所にお勤めの梅津幸浩さんは、以前、息子さんがこの大会に出場されて以来、宮田サッカースポーツ少年団の指導をされていらっしゃるそうです。梅津さんのチームにとって竹内杯は6年生の仕上がり具合と卒団までの指導方法を確認する大切な大会であり、合宿をしてこの日に備えたとおっしゃっていました。5種目合計83チーム1,055名の小学生が、各会場で力強い対戦を繰り広げ、観客から熱い声援を受けていました。

梅津さんと宮田スポーツ少年団の皆さん

詳しくは日立みらい財団HP ▶▶ http://www.hitachi-zaidan.net/mirai/index.html をご覧ください。

編集後記

今回は日立環境財団創立40周年と、各財団の夏の行事を紹介しました。茨城県で開催したスポーツ大会や滋賀県の琵琶湖キャンプ、秋田県のNPO活動の視察、奨学生の東北研修旅行など野外で実施する活動が盛り沢山でした。掲載できなかった写真は各財団のホームページで紹介していますので、あわせてご覧ください。日立環境財団はfacebookを始めました。コメントなどをいただければ幸いです。
次号は来年1月にお届けする予定です。

いいね！ ・ コメントする

本ニュースレターに関するご意見・ご感想等がございましたら、財団までおよせください。お待ちしております。

公益財団法人　小平記念日立教育振興財団	odairakinen@hdq.hitachi.co.jp	TEL 03-3257-0850
公益財団法人　倉田記念日立科学技術財団	kurata@hdq.hitachi.co.jp	TEL 03-3257-0852
公益財団法人　日立環境財団	kankyo@hdq.hitachi.co.jp	TEL 03-3257-0851
公益財団法人　日立国際奨学財団	scholarship@hdq.hitachi.co.jp	TEL 03-3257-0853
公益財団法人　日立みらい財団	mirai@hdq.hitachi.co.jp	TEL 03-3257-0850

所在地　〒101-8010 東京都千代田区外神田四丁目14番1号 秋葉原UDXビル21階

日立ファウンデーション（米国）	shakai.koken.qm@hitachi.com	TEL 03-4564-5040

*日立ファウンデーションについてのお問い合わせは（株）日立製作所 CSR本部 社会貢献部まで。

人を育み 未来へ繋ぐ
日立グループの社会貢献活動

発行日：2012年10月1日発行
発行責任者：神山 和也
編集責任者：寺村 奈津季
印刷：日立インターメディックス（株）

財団ホームページ ▶▶▶ www.hitachi-zaidan.org